

杉山嘉英さんが旭日双光章の栄誉に輝く

11/4

社会に長年貢献し、顕著な功績を挙げた方々に授与

壱町河内区の杉山嘉英さん(71)が、地方自治に功績顕著だとして旭日双光章を授与されました。

杉山さんは、平成9年2月に中川根町議会議員に当選して以来、平成14年1月まで川根本町議会議員として議会運営に大きな功績を残されました。平成14年2月から平成17年9月まで中川根町長、平成21年10月まで川根本町長として町政に尽力されました。また、平成29年9月から森林組合おおいがわ代表理事組合長、令和6年11月から公益社団法人静岡県林業会議所代表理事会頭を務めており、地域の産業振興にも多大な貢献を果たされています。



左から蘭田町長、杉山嘉英さんと勤子夫人

災害時の物資の受け入れと配達を円滑に

11/7

佐川急便株式会社と「災害時における支援物資の受け入れ及び配達等に関する協定」を締結



蘭田町長(左)と田村支店長(右)

町は、佐川急便株式会社と「災害時における支援物資の受け入れ及び配達等に関する協定」を締結しました。協定を締結し、災害発生時における支援物資の受け入れから、必要としている場所への配達支援の要請が可能となりました。

佐川急便株式会社東海支店の田村英史支店長は「本協定が締結しただけとなるよう、日常的に町と連携を深めていきたい」と述べ、町長は「災害時、支援物資に関する業務を佐川急便株式会社にご支援いただけることは、町民にとって安心材料になる」と感謝の意を述べました。

身ぶり手ぶりを使い日本語での対話に挑戦

11/23

外国人住民を対象とした日本語教室を開催

町では、外国人住民にも過ごしやすいまちづくりを目的に、新たな取り組みとして日本語教室「にほんごひろば」を開講しました。初年度は14人の外国人が参加し、サポーターとして参加する町民との交流を楽しみながら日本語を学んでいます。

11月23日に開催された第2回の教室は「食べ物」をテーマとして開催され、好きな食べ物や、料理の作り方についての説明に挑戦しました。「煮る」「炒める」などの調理用語に苦戦しつつも、ジェスチャーを交えながら日本語が伝わったときには自然と笑みがこぼれ、楽しく充実した時間となりました。



やさしい日本語で自己紹介する参加者

実りの秋を肌で感じる

10/29

三ツ星学園3年生が稲刈り体験

三ツ星学園の3年生が、地名地区の田んぼで稲の収穫作業を行いました。これは6月に田植え体験をした苗が育ち、収穫したものです。

子どもたちは、小さかった苗が大きく育ち、穂を垂らす様子に感動しながら、協力して稲刈りを行いました。

収穫したお米は精米され、食育の一環として学校へ贈呈されます。この体験を通じて、子どもたちは秋の恵みを肌で感じ、食べ物を大切にする心や自然への感謝の気持ちを育む貴重な機会となりました。



たくさんの穂をつけた田んぼ
慎重に稲を刈る



第2号

シームレスな教育

前回のおたよりでは、川根本町が目指す「共育」で大切にしていることは「①主体性を育て ②多様性を受け入れ ③可能性を信じること」だとお伝えしました。今回は授業を通して、この3つが機能した「シームレスな共育とは何か」を考えてみたいと思います。

「一人でもみんなでも」一人一人が主役となる学び



この写真は光の森学園6年生が外国語の授業で行った「自分の好きな国を紹介しよう!」の一コマです。子どもたちはタブレットを使って自分の好きな国のこと調べ、友達に英語で紹介します。

この授業での教師の役割は、外国語を使った表現力を自ら高めようとする子どもに寄り添い、子どもたち一人一人が学びの主人公になれるように伴走する存在なのです。

川根本町ならではの総合的な学習の時間での学び



この写真は三ツ星学園の総合的な学習の時間の一コマです。三ツ星学園では7・8・9年生でシームレスなグループをつくり、川根本町の良さを生かしたり、課題を解決したりするテーマを設定して探究活動に取り組んでいます。

この日は川根高校の3年生が来て、三ツ星学園の活動に対してアドバイスをしてくれました。川根高校では「地生物学」という地域課題を解決する学習を行っています。そのような学びを3年間行ってきた先輩からのアドバイスに、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。

今回紹介した2つの学びに見られる共通した特徴があります。それは先生が教えていないということです。「子どもを信じて任せる」シームレスな共育において、大切にしたい教師の姿勢だと思います。

川根本町教育委員会 教育長 石原一則

ご意見ご感想をお聞かせください。
E-mail : k-ishihara@town.kawanehon.lg.jp